

軍艦遣命令航路及行動

0018

供覽

艦政本部

軍令部

秘密

機密第一四四號

軍務局長

柄

安

軍務局長

吳鎮參謀長

第二部

第一課 特別任務係

軍艦ハ小演習終了後來十月初旬ヨリ  
 約一ヶ月半ノ豫定ヲ以テ軍艦伊吹ト共ニ暹羅  
 國ノ派遣セシメラルル内定ニ付ハ其地遠航ニ必  
 要ナル工事アラハ右小演習前ニ終了セシメラルル様  
 法ヲ計ルベシ  
 右依命申達ス  
 此于本件ハ公然ニ發表セラルルハ當否者外ニハ

23 四カク多ク多ク多ク

九月廿一日起案  
九月廿五日發付濟

海軍

0019

秘密の保とシテ

海軍

(終)

軍務局長

第一艦隊参謀長

九月廿日 發行済

機密第二号

軍艦伊吹持別任務ノ件

軍艦伊吹ハ現役務ノ停職令ハ演習結了後來

十月初旬ヨリ約一ヶ月半ノ豫定ヲ以テ博茨王殿

下ノ由臣艦トシテ暹羅王ノ派セシメラルル内定ニ

付テ演習結了後ハ直ニ其津十浦ニ着手セシメラ

シテ

右依命申進ス

花巻結

2

0020

近テ借奉禮ニ定テ指定セラレタル本件ハ公外ニ  
発表セラルハ止ハカラス事外ニハ秘密ニ係ルニ成

海軍

(終)

3.

化時類

0021

和

伊吹

起案紙第一號

明治四十四年九月十日  
起案起案者捺印  
返本九月十八日  
發付發付者捺印  
發付後起案者捺印

主務 軍務局長 柄

局員

返本

大臣

次官 參事官

副官 京票

卷紙

拜啓

來十二月初旬暹羅國皇帝陛下戴冠式參  
列為御名代トシテ 博恭王殿下ヲ奉差ス

發送  
書號

軍  
官

0022

海軍

与 御汰 御召艦ヲ伊吹、供  
奉艦ヲ淀、指定シ、諸旅ヲ豫定別紙、通計  
畫致候間、殿下、諸思召出、経伺、上、何分、所  
回、君方之、及、此、段、の、考、意、候、御、意、也

甲午年九月十八日 次友

博茶五附

皇族附武名四重考輔 札

近、御召艦、及、伊吹艦、の、件、ハ、確、定、奉、表

ハ、時、候、迄、秘、密、ト、申、上、候、御、意、也、御、意、也

0023

長持

九二五午未

上代式印(五) 彦左衛門(五)  
司卷紙

0024

暹羅西地遊(年紙)  
其若日刻(地)りる  
予定(元)ノ(三)の(方)ハ  
其文也

柄

長持

長持

起案紙第一號

明治三十四年九月五日起案

起案者捺印

送本の月

發行捺印

發行後起案者捺印

主務

軍務局長 柄

局員

送本

大臣

副官

次官



參事官



明治四十四年九月廿五日

次友

第一禮隊系講義

朝日禮長博長五殿下、法名代トシテ暹

官房機密第四十九號

要

0025



羅國皇帝陛下戴冠式參列  
清沙塔  
セラレタリ  
來十月中旬本邦  
出表  
出渡  
暹アラセラレ  
ヘク  
出石  
禮ニ  
伊吹ヲ  
供母  
禮ニ  
定テ  
指定セラレ  
ヘリ  
儀

右内報ス

近ニ奉付  
出石  
記及  
供母  
禮ニ  
出表  
定テ  
あり  
志  
心  
外  
一  
祕  
書  
ニ  
係  
ル  
儀

終

官報

海軍



海軍大佐 関野謙吉

陸軍騎兵中佐 田中國重

皇族附少佐海軍少佐 田中憲孝輔

伏見宮侍用掛家令 田中壽三郎

博恭王殿下暹羅國白王陛下戴冠式参列(又又君遣ハサ

ルニ付隨行被仰付(九月二日宮内省)

孔

0027

尾尾

海軍省副官



十月二日起  
十月四日發付濟  
海軍

軍務局



局員

安

十月四日發付濟



甲午年十月四日

省副友

増田予三様へ送る書状

秘

博業五段下羅羅五段と関之は  
本件を付第三様へ第五六〇号に以て依款  
越了に殿下ハ別紙送航海驛定表ノ面出渡  
航方知在云々付伊吹之由に禮之、定テ借付禮之  
借付ノ内容云々有之ハ多ク其旨を御中ニ為御禮  
派考及航路ノ件ハ何分發表有之迄必要ノ向以

官房機密第 四八九 號

在 甲午年十月三日  
官房接受

0028

海軍

外に秘密の保るに候上内子もあえを

其の事をも申付ス

(お志し義の事)

(終)

花時竹

2

0029

暹羅御航海豫定表						
地名	里程	航海日數	碇泊日數	發月日	着月日	
佐世保	八五	五日	一	十月十四日		
馬公	八六	七日	一	十月二十日	十月十八日	載炭
盤谷河口	一四七	六日	一〇	十月九日	十月十八日	載炭 定、三水先
香港	一五八	六日	一	十月十七日	十月十五日	載炭
橫須賀	五七二	三二			十月三日	
計	五七二	三二	一二			

海軍

(花時)

0030

軍務局

第三艦隊第五号

明治三十四年九月廿四日

軍務局接受  
44. 十月三日

増田第三艦隊參謀

小栗海軍者副官殿

局員

新聞紙上散見之依ハ博恭王殿下  
 暹羅國國王戴冠式御参列ノ為大同國  
 御旅行ノ節郵船會社船ニ當供及  
 香供御寄共ニ趣有之右様事次  
 芽上ノ當場各艦今後ノ行動ヲ豫定ス  
 此上ノ於テ願慮ヲ加ヘ返而共ニ於テ御送  
 官房第三三七号  
 四八九號  
 直

十月二日  
増田参謀

0031

迎申上ケ得ん如ク按排致度司合言高ク希  
 望之拍之候條御旅行日廻御決定  
 相本素得ハ可成速カニ御報相煩度  
 右御依頼ス

(込)

0032

信紙

海軍省副官

軍務局 柄

局員 中

安

甲午四月十七日

省副官

十月七

日發付

村

増田三郎海軍省副官

博志王及ら暹羅王に於て其の夫に於

て有るに付暹羅王の友方機務部には八月五日に於て

暹羅王の友方機務部には八月五日に於て

暹羅王の友方機務部には八月五日に於て

暹羅王の友方機務部には八月五日に於て

暹羅王の友方機務部には八月五日に於て

暹羅王の友方機務部には八月五日に於て

信房第三四

中

(終)

0033



起案紙第一號

明治三十二年九月廿二日起案  
起案者 捺印 船  
十月廿二日發行  
發行掛 捺印 木村  
發行後起 捺印

主務 軍務局長 柄 局員

大臣 庵

次官 參事官

副官

人事局長 江頭

經理局長 小

艦政本部長 田

商議 軍令部長 山

次長 第一班

明治三十二年九月廿二日

大臣

九月廿七日

軍艦發着ノ件

發送 官房機密第四六二號

發着

0034

第一艦隊

軍艦 伊吹

吳鎮守府警備艦

軍艦 淀

右暹羅國、派遣セシメラル

前書、通作 元教方、計、

右商議ス

(終)

理由

博恭王殿、暹羅王皇帝陛下、戴冠式、  
名代トシテ、アムニ依ル 及供奉艦トシテ必要

アムニ依ル

0035

官房機密第 四六二號三

明治四十四年十月五日 大旨

第一艦隊司令長官

吳鎮守府司令長官

(連名各通)

軍艦發見件

第一艦隊

軍艦 伊吹

吳鎮守府警備艦

軍艦 淀

右暹羅海派遣セシメラレ

右傳達ス

事

(終)

置

0036

洋 年

官房機密第四六二號三

明治四十四年十月五日 大臣

内閣總理大臣

外務大臣

(前同文) 半航紙片セシメラル

右報告ス (外務大臣ハ「報告」ヲ「通譯」ニ依ル)

(外務大臣) 近テ航路豫定ハ更ニ通譯ニ可致ス

(終)

官房機密第四六二號七

次官

侍從武官長

0037

東宮武官長也

(前同文) 派遣(セシメラレ)

右通勝又

(終)

官房機密第四六三號、四

大臣

第一船隊司令長也

(連名各通)

吳鎮司令長也

軍艦伊吹及淀暹羅玉派遣ニ関スル件

今般軍艦伊吹及淀ヲ暹羅玉ニ派遣セシメシ候ニ就

テ同國皇帝陛下戴冠式参列、為此名代トシテ被差

差候博恭王殿下ノ御召禮ニ伊吹ヲ供奉禮ニ遣

毎

頁

ヲ供用候條各艦ヨリテ聯合小演習結了後吳軍  
港ニ於テ速ニ諸準備ヲ整頓セシメ殿下御乗禮日  
取前御乗禮船ニ回航ノ上該任務ニ服セシムヘシ

近テ戴冠式ハ十二月一日ヨリ同九月ニ自リ尋ね奉

候條伊吹艦長ヲシテ別派航海隊定表ノ範圍

内ニ於テ殿ヲ法舞艦船確定ニ至航路隊定表ヲ調

製並有之臣ノ承認ヲ經テ之ヲ實施セシムヘシ

兼艦長自取及海軍部ニ確定スルヲ期ス

右訓令ス

(別紙一葉添)

(終)

大臣

0039

官房機密第四六二號

第一艦隊司令長官

(連名各通)

吳鎮司司令長官

軍艦伊吹及淀暹羅玉派き任務に關し仲

今般軍艦伊吹及淀ヲ暹羅玉ノ派キセシメラレ候ニ付テ

本任務遂行上ノ事項ニ關し淀艦長ハ伊吹艦長ノ

指揮ヲ受クニ後ト心得ヘシ

右訓令ス

終

次ニ一書アリ

軍

皇曆卷四十六、六

大臣

宮内大臣

十月五日 發行濟

0041

博恭王殿下暹羅國皇帝陛下戴冠式参列ノ為

法名代トシテテ差遣ニ付テハ

殿ノ口ヨリ古渡航法召禮ニ軍禮伊吹ヲ供奉禮

軍禮淀ヲ供用候條執奏方可此由可計也

如左

右照會ス

(終)

海軍



# 別紙

速力十節ヲ以テ算ス

地名	羅	暹	羅	航	海	豫	定	表
地	暹	羅	羅	航	海	豫	定	表
名	暹	羅	羅	航	海	豫	定	表
佐世保	馬公	盤谷河口	香港	橫須賀	計			
八 一 五	八 一 五	一 四 七	一 四 七	一 五 八	五 七 二 五			
三 一 〇	三 一 〇	六 六 三	六 六 三	六 四	二 三 二			
一 〇	一 〇	一 〇	一 〇	一 〇	一 二			
十月十四日	十月二十日	十二月九日	十二月十七日	十二月十七日				
	十月十八日	十月十八日	十月十八日	十月十八日				
	載炭	載炭	載炭	載炭				

海軍

(花崎地)

0042

新

海軍

海軍

四宮中尉武官来候

陛下御前候也。依世傳ト出候ヨリ

河内祝之先ト依世傳ト定テ本年四月御儀ト格下候トテ

田中宗直ノ内閣ニ依シ

陸軍ヨリ陸軍友ニ陸軍少佐依田中五郎

格下ヨリハ若界ノ上 伊吹祝也トテ

馬場若菜ノ初ヨリ横濱成思ト定

メヨリハ、コトニ 其ノ由直佐ヲ承リ

花時

海軍

0043

別紙

乃等子等

計	横須賀	香港	盤谷河口	馬公	橫須賀	地名	暹羅航
六十九	一五八〇	一四七〇	一八六〇	一八一九	航程	暹羅航	
二五二	六一四	六六三	七二八	航日數	海隊	定表	
一二	一	一〇	一	日數	發月日	着月日	
	十月十七日	十月九日	十月二十日	十一月十四日			
	十月十五日	十月廿八日	十月十八日				
	載炭	載炭	載炭				

速力十節ヲ以テ算ス  
 晴宜依、出發地、佐世保若、長崎、薩摩

海軍

(花崎摺)

0044

別紙

旧幕

暹羅航海隊定表		船名		船種	
地名	距離	航程日数	出帆日	着月日	
横須賀	三〇九	六	十一月廿三日		
馬公	三〇八	六	十一月廿四日	十二月六日	載炭
盤谷河口	三〇七	六	十一月廿五日	十二月七日	載炭
香港	三〇六	六	十一月廿六日	十二月八日	載炭
横須賀	三〇五	六	十一月廿七日	十二月九日	載炭
計	六三一九	三二		十二月十日	

海軍

速力 十節ヲ以テ算ス

晴風、海の波甚だしく、世保系は長崎まで  
 走セラルコトアル

花崎稿

0045

化  
納

書

0045

御乗船地ハ佐世保ト出之  
 せうん  
 四山免所附故ヨリ  
 依之ハ  
 御乗船地ハ佐世保ト出之  
 御乗船地ハ佐世保ト出之

0046

軍務局

柄

宮内省  
文書課  
祕第四

暹羅國皇帝陛下戴冠式ニ参列ノ爲御  
名代トシテ御差遣ノ博恭王殿下御召艦  
ニ軍艦伊吹ヲ供奉艦ニ軍艦磯ヲ供  
用ノ儀ニ開シ機密第<sup>四</sup>六二號ノ六ヲ  
以テ御申越<sup>局員</sup>ノ趣了承早速執奏方  
取計置候此致及回答候也

明治四十四年十月六日

宮内大臣伯爵渡邊千秋



海軍大臣男爵齋藤實毅

長

十月六日  
海軍省接受

軍務局接受  
44. 十月七日

0047

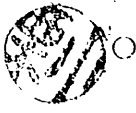
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

(0048)

0048

ノ長

海軍省副官



海軍

軍務局長



局員

電

年上地球子分

甲午年十月七日 有副友

第一艦隊 指揮官 野村

伊吹定ヲ羅羅五ノ孤老ノ以ハ島子秘密ニ係  
タルニ及ハス

右ノ部ヨリテ子進出ノ前子也  
ニ依ル

花

0049





あつたおしん  
たのむ内務ス

海軍

終

2

(花崎)

0051

皇



軍務局 初

軍令部 濟

文部大臣官房 甲第五三三號



御名代トシテ暹羅國皇帝陛下戴冠式  
へ御參列ノ博恭王殿下ニハ來ル十二  
日東京御出發十四日佐世保<sup>（章）</sup>リ鑼艦  
甲吹<sup>ニ局員</sup>テ御發航相成候處殿下東京御  
出發磐谷御著迄途中ハ全然御微行ニ  
有之候條此般御通知申進候也

明治四十四年十月二日

宮内大臣伯爵渡邊千秋



軍務局接受  
44. 十月四日

0052

海軍大臣男爵齋藤實殿

(043)

0053

起案紙第一號

明治三十二年十月二日起案  
起案者捺印  
十月五日發付  
發付者捺印

主務 軍務局長 局員

大臣

次官 參事官

副官

明治三十四年十月五日 次官

第一艦隊 橫、吳、佐鎮長友

伊吹、澁艦長

（連名各通）

博恭王殿下 法發着 刻別紙一通

發送 官房 三八一號

每頁

十月二日 母接号

0054

：後部田中伏見を海軍用樹ヨリ通條を之  
右を公的(通)ちス

(別紙一系係)

① 途ニ途中法遊行ノ了

(終)

0055

軍務局

奉

○

月 日

拜啟陳者博恭王殿下御渡暹之日御遊後着割  
別紙御會通、差上置、周知直收被下度、彩、

○

○

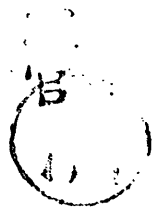
田中依久宮御用掛

局員

財部海軍給支版

44. 七月 一日 軍務局接受

0056



御發着割表

十一月十二日 午後三時四十分

新橋 發

十三日 午前七時十七分

神戸 着

同 七時廿五分

同 發

午後八時廿五分

下関 着

山陽出立

御一泊

軍務局

十四日 午前六時四十五分

下関 發

同 七時

門司 着

同 七時四十分

同 發

午後二時三分

佐世保 着

直<sub>2</sub> 御東艦 御出港



二  
一  
九  
七

皇

供覽

軍務局

軍令部

甲寅二月九日  
 博恭王殿下  
 羅國  
 御出  
 御差遣  
 即日  
 御世本  
 新橋  
 吹出  
 御合  
 即日  
 御世本  
 御間  
 御路  
 御即  
 御世本  
 御間  
 御路  
 御即  
 御世本  
 御間  
 御路  
 御即  
 御世本

海軍大臣 尾崎 實 啟

進東京御出候  
 御行

宗秩容總候  
 御入試通

い  
たけ

い  
たけ

い  
たけ

い  
たけ

高

高

高

高

中

中

中

中

0058 44.11. 8

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

http://www.jacar.go.jp/

御發着表

十月二十二日午後三時四十分

同 十三日午前七時十分

同 七時廿五分

午後八時五分

山陽 瀬川 御一泊

同

十四日午前六時四十分

同 七時

同 七時四十分

午後三時十分

直津 東艦 佐世保 着

下関 着  
門司 着  
門司 着

神戶 着  
神戶 着  
新橋 着

起案紙第一號

明治三十九年十月八日起案  
起案者  
十月十日發行  
發行掛  
發付後起  
案者捺印

主務

軍務局長 橋

局員

大臣

陸

副官

參事官

次官

參事官

參事官

明治四十四年十月十日

次官

外務次官 友

是四維玉派老軍形と突スレ件

十月八日

發送  
番號

官房第三八六二號

安

三

0060

今般暹羅國之派遣セラレ候軍艦伊吹及淀ノ  
 水先案内及炭舟小蒸汽船供給等、件ニ突シ去  
 田全權公使ヨリ貴省大臣ニ電報、越了右  
 ハ委細閑野伊吹艦長、通條ニト同時ニ兩艦盤  
 谷到着、時日ハ豫メ伊吹艦長ヨリ同公使ニ電報  
 通知可致与申進置候又軍艦淀ノ長カハ全長三  
 〇五呎六吋、有之糸有了之、之可然亦計出候  
 右申進ス

(終)

官房第三八六二、二

次官

伊吹艦長

別紙、通在暹吉田全權公使ヨリ外務大臣ニ電

報考之候、付去高ノ上貴福及淡ノ盤谷到着時月  
ハ確定次第豫メ同公使、電報通告お取致  
右通啓方申進ス

近ニ淡ノ長共全長三〇五呎六寸ナル旨通告届ル  
為本件ハ便宜淡艇長、通告お取致

(別紙ノ参考)

(終)

海軍

0062

海

開野船長ノ通知ノ要之

盤石費 四十四年十一月六日 後六二五  
東京着 二二五九



国外務大臣

吉田全權公使

第一六號

貴電十八號ニ関シ水先案内ノ件當局ト協議シ  
遂ニ之リ到着ノ際ニハ兩艦トモ一旦河川淺瀬  
ノ外ニ碇泊シ供奉艦ニハ水先ヲ乘艦セシメラ  
ルニ其外淡水石炭 (Puritan) ノ際ニ小魚汽ノ供給  
等々協議整ヘリ就テハ万一到着ノ豫定変更ス  
ル場合ニハ直々ニ通知シ請フ又淀艦港内ノ碇  
泊場選定ノ為同艦ノ長ヲ御通知シ請フ

0063

右ハ  
M. King  
大佐  
ノ  
脚  
移  
録  
ヲ  
請  
フ

0064

事件の予そ

記

44-11-8

0065



軍務局



送第 二九二 號

明治三十一年十月八日

外務省次官 青木 義典 謹啓

海軍省 財政廳 啓

局長

海軍省 財政廳 局長 青木 義典 謹啓

外務省 財政廳 局長 青木 義典 謹啓  
海軍省 財政廳 局長 青木 義典 謹啓  
海軍省 財政廳 局長 青木 義典 謹啓  
海軍省 財政廳 局長 青木 義典 謹啓  
海軍省 財政廳 局長 青木 義典 謹啓  
海軍省 財政廳 局長 青木 義典 謹啓  
海軍省 財政廳 局長 青木 義典 謹啓  
海軍省 財政廳 局長 青木 義典 謹啓  
海軍省 財政廳 局長 青木 義典 謹啓  
海軍省 財政廳 局長 青木 義典 謹啓

天野 龍 幸 啓

別紙 添附

0066



監正費 四十五年三月六日 第六一五  
東京 九

内田外務大臣

若田令権公使

貴賓十八日、例に水先案内、件當向小協議  
遂に到著、際、ハ兩艦トモ一旦河川  
外に碇泊し供奉艦ハ水先ヲ乘艦セシメ  
ル、其外淡水石炭、小魚汽、仕  
等々協議整、リ就テハ、到著ノ豫定変更  
ル場合、ハ直々通知ヲ請フ又、淀艦港内、碇  
泊場選定、為、長、御通知

0068

東京  
「*Shōmei*」  
文庫  
一  
冊  
移  
贈  
の  
為  
に

0069

